

ナシ「凜夏(りんか)」の着果程度と収量性

「凜夏」は予備摘果を行った後、側枝 1 m あたり 6 果で着果させると果実品質を維持しながら高収量が見込める。また、予備摘果を行わず本摘果のみであっても、側枝 1 m あたり 5 果で着果させると大玉（4 L）果実生産ができる。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室（担当者：古田和秀）

研究のねらい

「凜夏」は、西南暖地においても発芽不良の発生が少ないことが報告されており、温暖化の進行に対応できる品種として期待されている。ここでは、今後の産地への導入に向け、摘果程度の違いによる果実品質と収量について明らかにする。

研究の成果

1. 果実肥大は、側枝 1 m あたり 4～6 果着果では、着果数の違いによる顕著な差はみられない（図 1）。
2. 果実階級比率は、側枝 1 m あたり 4～6 果着果させると 3 L 以上の割合が 80%以上となる（図 2）。
3. 果実品質は、側枝 1 m あたり 4～6 果着果における着果数の違いによる硬度・糖度・果皮色には差が見られない。
4. 推定収量は、側枝 1 m あたり 6 果着果が最も多い（表 1）。
5. 側枝 1 m あたり 5 果着果では、予備摘果の有無による果実品質に差がなく、平均 1 果重が 4 L となる（表 1）。

成果の活用面・留意点

1. 本試験は、露地栽培「凜夏」15～16 年生で実施した結果である。
2. 本試験の摘果時期は、予備摘果が満開 20 日後まで、本摘果が満開 45 日までに行った結果である。
3. 「凜夏」は予備摘果を行わなくても大玉生産ができることから、摘果労力の分散が可能であるため、摘果が急ぐ早生品種や着果量の多い品種（「幸水」、「秋麗」、「あきづき」等）の予備摘果作業を優先することができる。

【具体的データ】 No. 1133 (令和7年(2025年)6月) 分類コード 02 -10 熊本県農林水産部

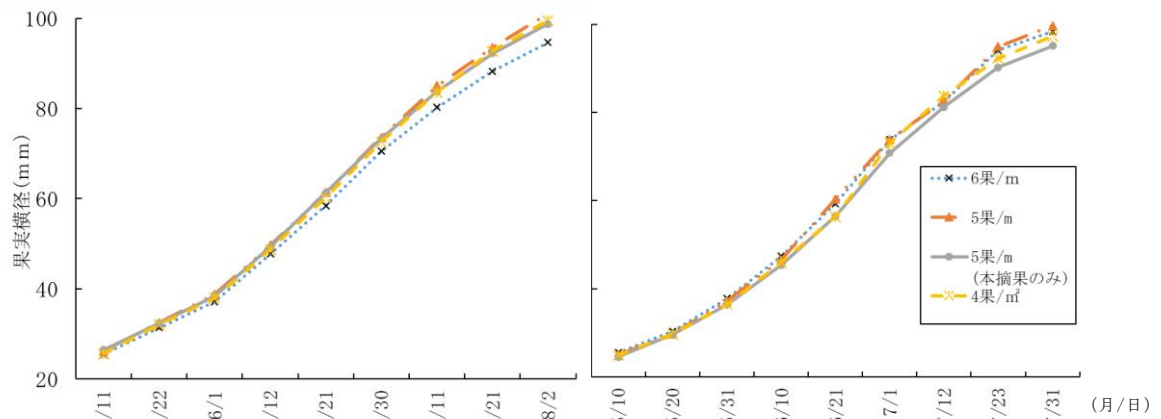


図1 側枝1mあたり着果数別の肥大推移(左:2023、右:2024)

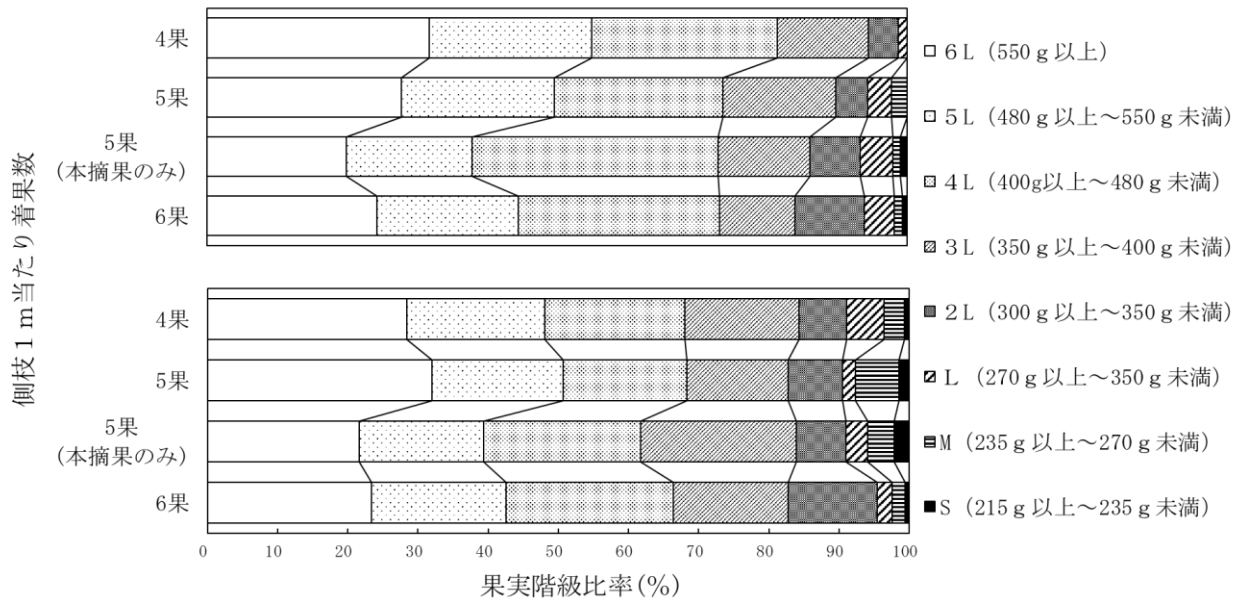


図2 側枝1mあたり着果数別の果実階級比率(上:2023、下:2024)

表1 ナシ「凜夏」における側枝1mあたりの着果数と果実品質

区		1果重 (g)	果肉硬度 (l b s)	糖度 (Brix)	果形 ^{注1)}	地色 ^{注2)}	推定収量 ^{注3)} (kg/10a)
2023	4果	478	4.1	12.5	3.9	3.4	3,030
	5果	475	4.2	12.7	3.8	3.3	3,785
	5果(本摘果のみ)	459	4.2	12.7	3.8	3.4	3,553
	6果	467	4.2	12.7	3.8	3.3	4,216
	有意性	n. s. ^{注4)}	n. s. ^{注4)}	n. s. ^{注4)}	n. s. ^{注5)}	n. s. ^{注5)}	-
2024	4果	485	4.2	12.4	4.0	2.8	3,041
	5果	483	4.3	12.6	3.9	2.9	3,700
	5果(本摘果のみ)	458	4.4	12.6	4.1	2.8	3,389
	6果	470	4.2	12.5	4.1	3.0	4,329
	有意性	n. s. ^{注4)}	n. s. ^{注4)}	n. s. ^{注4)}	n. s. ^{注5)}	n. s. ^{注5)}	-

注1) 果形は良5～不良:1までの5段階評価
注2) 日本ナシ地色カラーチャート値
注3) L以下の果実は除外、4果:10果/㎡、5果:13果/㎡、6果:15果/㎡の着果と仮定、樹冠占有率80%、健全果率80%にて換算
注4) Tukeyの多重比較検定により有意差なし
注5) Steel-Dwassの多重比較検定により有意差なし